

「道路政策の質の向上に資する技術研究開発」（平成24年度採択）

事後評価結果（公表用）

番号	研究名	研究代表者	評価
24-4	大型実験および数値解析による連続アーチカルバート盛土の設計規範の構築に関する研究	京都大学 教授 木村 亮	A
<p>＜研究の概要＞ ※成果報告レポートより引用</p> <p>高規格道路における盛土の閉塞感と高架橋のコスト高という問題を解決する構造物として、ヒンジ式プレキャストアーチカルバートを連続的に設置した「連続アーチカルバート盛土」が提案されている。本研究では、地震時の損傷形態と要求性能を明確にし、同構造の設計規範を構築することを目的に、大型振動台実験とその数値解析をはじめとする種々の検討を実施した。</p> <p>＜事後評価結果＞</p> <p>遠心模型実験、大型振動台実験とそれに基づく数値解析、並びに、部材継手部の性能試験を着実に実施することにより、地震時挙動の解明と限界状態を把握し、設計規範の構築に向けた考え方を示している。研究目的は達成され、十分な研究成果があったと評価する。</p> <p>＜参考意見＞</p> <p>1. 実構造物では、土被りが極めて小さいものもあり、地震時挙動や活荷重の影響が異なってくる。構造によっては基礎の沈下の影響も生じてくる。道路土工構造物技術基準で性能が明示されており、開発された構造形式について、地震時も含めた保証性能や適用範囲、施工時も含めた適用上の留意事項をとりまとめられたい。</p>			

※本事後評価は、新道路技術会議の各委員が評価を行い、第27回新道路技術会議において審議したものである。